

## エンビプロ・ホールディングスの完全子会社

エンビプロ・ホールディングスの完全子会社、NEWSOON（本社・東京都港区、社長・妙見英樹氏）が7月から営業を開始した。4月に設立された同社はエコネコル（本社・静岡県富士宮市）から鉄スクラップ輸出などグローバル資源循環事業を承継している。NEWSOONの役割や今後の目標などを妙見社長に聞いた。

（小堀 智夫）

「まずは抱負を。創造する」という思い「エンビプログループもすっかり受け止め、前は前身となった佐野グループ全体を新たなマルカ商店の創業（1ステージに導ける存在950年3月）から今でありたい」

——グループ内での役割は。佐野マルカ商店に貿易部が設立されたの「当社はエンビプロが92年8月。貿易事業HDのアンテナ機能とは約30年の歴史があり、グループ全体の。これまでに築かれ海外戦略の橋頭堡の役割を担う。急速に進む良い伝統をしっかりと。急進に進む継承しつつ、当社のグローバル化の波に乗名に込められた『世界に遅れないよう、積極的に海外事業を検討

### 妙見 英樹社長に聞く



妙見 英樹氏（よしみ・ひでき）98年（平10）関西大学卒、三井物産金属原料入社。04年三井物産出向、海外勤務などを経て、16年三井物産メタルズ、18年7月エンビプロ・ホールディングス入社、エコネコル出向貿易部長、19年エコネコル取締役貿易部長（現任）、20年4月現職。75年（昭50）3月15日生まれ。大阪府出身、45歳。

「今回の分社化による販売先を見いだすことが分けられた。エコネコルは選別など現場力向上に注力し、当社はグループ全体を通じてトレーディングや新規事業の開拓を進め、当社は輸出だけで行う。グループ全体

「市場を広げていく」の機能を生かし、最適の概要とヤード拠点ト）、プラスチック、古紙、古着、雑貨だ。現在は鉄・非鉄の半製品も扱いたい」

「人員は35人。組織は10カ所（直江津、船橋、川崎、田子の浦、豊橋、衣浦、名古屋、尼崎、大阪府南港）の機能を生かし、最適の概要とヤード拠点ト）、プラスチック、古紙、古着、雑貨だ。現在は鉄・非鉄の半製品も扱いたい」

「NEWSOONは鉄・非鉄の半製品も扱いたい」

「現在は船積み拠点料も含め、国内外でのから買いたいと言われ」

「鉄スクラップの発生は一時的に通常の5割に落ち込んだが、現状は7〜8割まで戻ってきている印象だ。コロナ対策では優秀な輸出手相手が多く、売りに先にはあまり困っていない。他業界に比べ事業に工夫の余地があり、三國間貿易もその一つ。コロナ禍はモノの流通に変化を及ぼし、輸出スクラップの品質問題について。野に挑戦する集団でありたい」

「世界を身近にする」

「鉄スクラップの発生は一時的に通常の5割に落ち込んだが、現状は7〜8割まで戻ってきている印象だ。コロナ対策では優秀な輸出手相手が多く、売りに先にはあまり困っていない。他業界に比べ事業に工夫の余地があり、三國間貿易もその一つ。コロナ禍はモノの流通に変化を及ぼし、輸出スクラップの品質問題について。野に挑戦する集団でありたい」

## グループ海外戦略の橋頭堡に

### スクラップ扱い量 25年に100万ト目標

「前期（2020年6月期）の扱量は、鉄スクラップが55万ト、非鉄スクラップが4万ト、バイオマス原料が6万トで、合計65万トを含まれば11カ所だ」

「前期（2020年6月期）の扱量は、鉄スクラップが55万ト、非鉄スクラップが4万ト、バイオマス原料が6万トで、合計65万トを含まれば11カ所だ」

「前期（2020年6月期）の扱量は、鉄スクラップが55万ト、非鉄スクラップが4万ト、バイオマス原料が6万トで、合計65万トを含まれば11カ所だ」

